

羅針盤

平成28年度 第17号(通算268号)

平成28年11月18日(金) 発行

岡山県総合教育センター

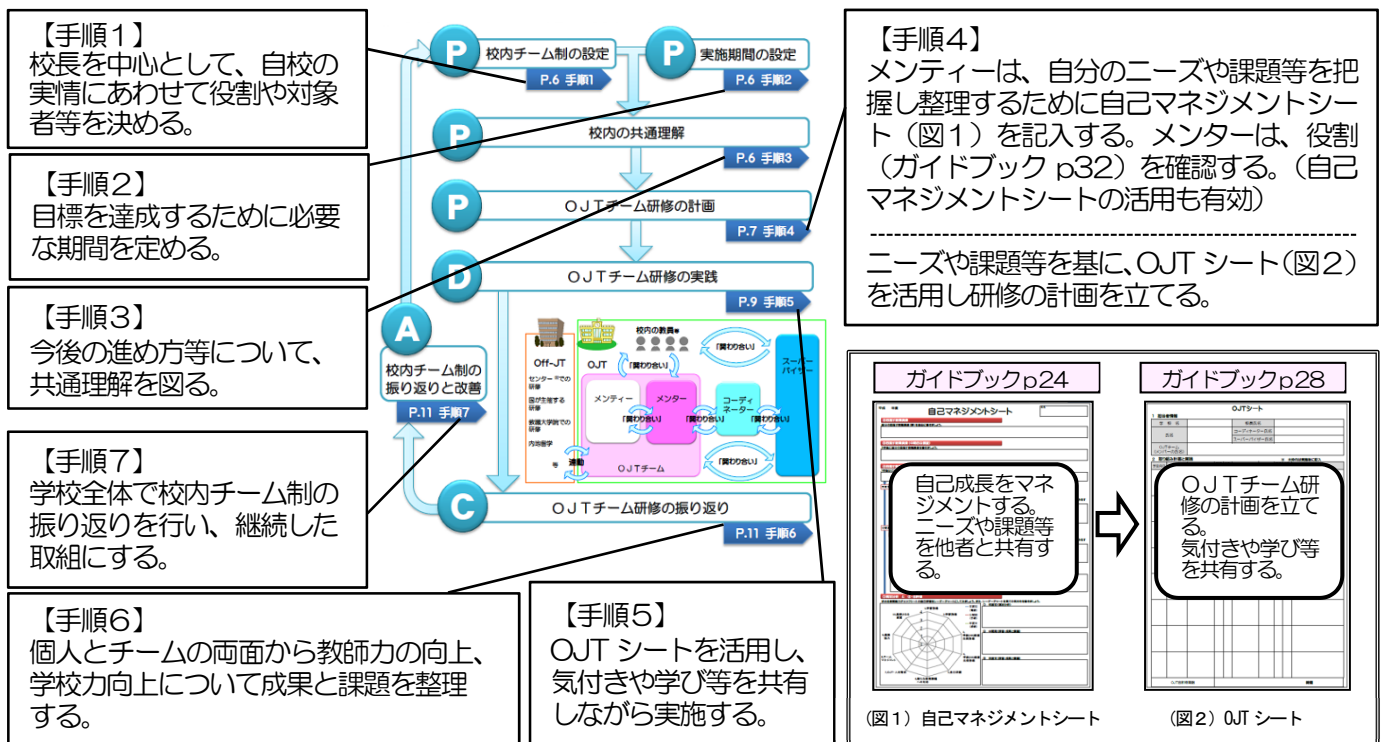
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

「学び続ける教員のための OJT ガイドブック『関わり合い』で創るすてきな学校」活用シリーズⅡ

学校力向上を推進する校内チーム制

前号のシリーズⅠ（11月4日（金）発行）では校内チーム制実施の方針について紹介しました。今号では、校内チーム制の進め方について紹介します。

〈校内チーム制の進め方のポイント〉 ※『ガイドブック』（p6～p11）参照



〈「関わり合い」を機能させるために〉

校内チーム制のキーワードは「関わり合い」です。「関わり合い」を機能させるためには、次の四つのポイントがあります。

1 管理職のリーダーシップ

- ・チームのメンバーが主体的に参加し、自由な雰囲気の中で議論が進められるようにする。
- ・教員一人一人の現在の資質能力や、今後伸ばす必要がある資質能力を踏まえ、人選や助言等を行う。
- ・限られた時間を有効に活用し、個人や学校の課題に対する方策等を導き出せるようにする。

2 校内の体制づくり

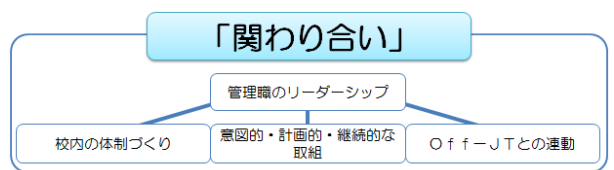
- ・OJTチームは、一度に複数の教員が共に学び合えるようメンティーとメンターを複数対複数にする。
- ・スーパーバイザーやコーディネーターを配置し、取組が学校の課題解決に結びつくよう助言や調整を行う。
- ・「関わり合い」の中心にモデルリーダーを当てる。他の教員等も校内チーム制に「関わり合う」ようにする。

3 意図的・計画的・継続的な取組

- ・様々な教員が相互に「関わり合う」よう意図的に組み合わせる。
- ・OJTチームのメンバーのニーズや課題等に対応した計画の立案、実施、振り返りをする。

4 Off-JTとの連動

- ・OJTチーム研修とOff-JT（センターでの研修等）を連動させ、理論と実践とを往還させる。



「関わり合い」を機能させる四つのポイント

『学び続ける教員のための OJT ガイドブック「関わり合い」で創るすてきな学校』活用シリーズⅢ（12月2日（金）発行）では、「OJT実践校の取組例」について紹介します。（担当・教育経営部）

※次号の発行は12/2（金）の予定です。【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>